

奥野恭史(京都大学大学院医学研究科教授)、水口賢司((国研)医薬基盤・健康・栄養研究所AI健康・医薬研究センター長)、本間光貴(理化学研究所チームリーダー)、江口至洋(ライフインテリジェンスコンソーシアム事務局長/理化学研究所RCH)、志水隆一((公財)都市活力研究所主席研究員)

## 概要

医薬品開発費の高騰、新薬承認の低迷などの課題を克服するため、ライフサイエンスにおけるAI開発のオープンイノベーションの場「ライフインテリジェンスコンソーシアム(LINC)」を設立し、異業種連携を実施。先進的な取組で開発期間の短縮や大幅な開発費削減などを達成。

## 目的

IT及びライフ業界のオープンイノベーションで、AIによる医薬品開発を促進し、ライフサイエンス分野の開発を加速。当該分野の発展と人材育成、経済振興、引いては人類の健康寿命の延伸・健康向上を目指す。

## 内容

アカデミアによる基盤提供のもと、ライフ系企業とIT企業が医薬品開発に必要な工数を自ら出し合い、実践的に研究開発を進める異業種連携。100以上の企業・アカデミアから600名以上が参加し、医薬品開発プロセス全域にわたる30のAI開発プロジェクトを遂行。医薬品開発プロセス全域を丸ごとAI化する世界に類を見ない取組。

## 効果

40プロジェクト、予算規模13億円で、開発期間4年短縮、業界全体で1.2兆円の開発費削減が期待できる。

LINCで目指す社会的ニーズへの貢献



ココが、  
ポイント!

ライフ系企業とIT企業の異業種連携から、医薬品開発プロセス全域を丸ごとAI化する世界的にも先駆的な取組。またAIを基盤としたオープンイノベーションを進めるプロセスの組み合わせ方もユニーク。既に経済的な効果も推計されており、今後の医薬品開発への貢献度の向上にも期待が大きい。